

▶糖尿病の方へ

『糖尿病の患者さんは年々増えています。』

最近ではHbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の値を中心に糖尿病の診断と治療効果判定を行っていますが、HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の正常値は5.8までであり、5.9以上だと糖尿病予備軍となります。

糖尿病予備軍の方は、いずれ本格的な糖尿病に進み、薬物治療を要することとなる可能性が高いと言えます。

『現在では、糖尿病もメタボリック症候群の1つとしてとらえられています。』

(詳細は、[メタボリックシンドロームと特定健診\(メタボ健診\)について](#)のコーナーをご覧ください。)

糖尿病は早期にみつけて早期に治療することが重要です。

当医院では、特定健診(メタボ健診)を積極的に行い、その結果を基に糖尿病及び糖尿病予備軍の方をみつけだし、進行する前の段階で治療を始めています。

糖尿病は進行してしまうと3大合併症である【糖尿病性末しょう神経障害】・【糖尿病性腎症】・【[糖尿病性網膜症](#)】を引き起こすこととなります。

【糖尿病性末しょう神経障害】

高血糖にさらされていることにより、主に知覚神経が障害を受け、手先・足先のしびれが出現します。

さらに進行すると足の感覚がなくなり、画びょうを踏んでも気がつかないほどになります。すると靴の中に入った小さな小石により足に傷ができ、その傷口から化膿していくと糖尿病性足壊疽と呼ばれる状態となり、最終的には足切断を余儀なくされることとなります。

【糖尿病性腎症】

高血糖により腎臓の微小血管が障害されると腎症が進行していきます。

初めは、蛋白尿(タンパク尿)から始まりますが、最終的には人工透析を要する事となります。人工透析に至る原因の第一位が、この糖尿病性腎症です。

【糖尿病性網膜症】

日本人の失明に至る原因の第一位が、この糖尿病性網膜症です。

詳しくは、[糖尿病性網膜症](#)のコーナーをご覧ください。

糖尿病を放置すると終末像として、これらの恐ろしい結末が待っています。

糖尿病の治療は、最終的にこの3大合併症にならないために「血糖値を下げていく」こととなります。

▶糖尿病の治療について

糖尿病が進行してしまっからの治療は大きな困難を伴います。

当医院では、難治性・薬剤抵抗性の糖尿病の方の治療にも力を入れています。

「糖尿病の治療中だが値が良くならない」

「血糖・HbA1cの値がどんどん上がってしまい、薬の種類が増えるばかり」という方々から多くのご相談を受けています。

原則は食事療法・運動療法と薬物(内服薬)療法です。当医院では、重症・難治性の糖尿病患者さんでもインスリン注射を導入せず、何とか内服薬(飲み薬)で検査値が下がる様に薬剤を選択していきます。いくつかの飲み薬の組み合わせで値が落ち着いてくることが多いのですが、それでも十分に下がらない場合には、インスリン自己注射療法を検討していきます。

また最近では、糖尿病治療薬の領域でも新しい薬剤が登場し、糖尿病治療戦略も新たな局面を迎えています。

DPP-4阻害薬と、ヒトGLP-1アナログ製剤の二つがそれです。

インクレチン関連薬と呼ばれるこの二つの新薬は、低血糖を起こさずに血糖を下げてくれる画期的な薬剤であり、今後同様の作用機能を持つ新薬も相次いで登場することが見込まれており、糖尿病治療の薬物療法は新時代を迎えつつあります。

これら新しいタイプの治療薬も選択肢に加えることにより、多剤使用をしても値が良くならない難治性の糖尿病患者さんにも道が開けてきます。